

令和2年度

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科

生活造形専攻工芸専修 入学者選抜試験

共通筆頭試験

【小論文問題用紙】

試験時間 ・ 9 : 3 0 ~ 1 2 : 3 0

配布物 ・ 解答用原稿用紙 5 枚
 ・ 下書き用原稿用紙 5 枚

注意事項 ・ 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと

問題

あなたが工芸作品を制作する際、最も重要と考えていることについて記述
しなさい。

但し、専門分野が分かるような素材や技法などの名称は使用しないこと。

解答用原稿用紙 2～4枚（800～1600字以内）で記述すること。

※問題に関する質問にはお答えできません。

【染研究室・実技試験】

問題： 型染を想定して、配付されたモチーフから2種類以上使い、白黒で型染図案をイラストレーションボードに制作しなさい。

モチーフ： 木立ちベゴニア
パッションフルーツの苗
ヤッコカズラ
ムラサキオモト

制作上の注意事項

- ① ケントボードの裏面にある受験番号欄に、受験番号を記載すること。
- ② 裏面に図案の上下がわかるように矢印（↑）で上を明記すること。
- ③ 型紙図案の大きさは、42cm×30cmで、縦・横使い自由。
- ④ 42cm×30cmの枠は、ボードの中央に収まるようにする。
- ⑤ 白地型の図案で、配色する模様には黒（アクリルガッシュ）で着色し、糊防染する箇所は、白（紙の色）で残す。
絵具の白は、修正で使用しても良い。または使用しなくても良い。
油性マジックは修正用として使用し、全ての黒をマジックで塗らないこと。
- ⑥ カーボン紙、トレーシングペーパー、下書き用紙は図案制作のために、自由に使用しなさい。または使用しなくてもよい。
- ⑦ すべての配付物は、持ち帰らないこと。

※問題に関する質問にはお答えできません。



令和2年度
沖縄県立芸術大学
大学院造形芸術研究科生活造形専攻
工芸専修 織研究室 実技試験問題

自然をテーマに下記の条件で、壁面装飾布の織物デザインをなささい。

(記)

- 技 法 : 緋を使用する(経緯緋、経緋、緯緋のいずれか一つ)
- 寸 法 : 幅 180cm×長さ240cm (9.0cm幅の2枚組)
- 色 彩 : 全体図のデザインが分かる様に着色
(縮尺1/10)
- 答案用紙 : B3ケント紙 1枚
- 下書き用紙 : B3方眼紙 2枚
- 実技解答用紙を記入する事

令和2年度 沖縄県立芸術大学院造形芸術研究科

生活造形専攻工芸専修

陶磁器研究室 実技試験問題

【問題1】 制作時間 13:30～14:30

用意された粘土（白土）を使用し、轆轤で指定されたトンボを用いて、

1時間以内で碗を数挽きしなさい。

【問題2】 制作時間 14:30～16:30

配布された立体表現試験問題を読み、用意された粘土を用いて粘土板上

に自由に立体表現しなさい。

令和2年度

沖縄県立芸術大学 大学院造形研究科
生活造形専攻 工芸専修 陶磁器研究室

実技試験 【問題2】

「柔らかいカタチ」を造形しなさい。

また、出題についてどのように考えたか所定の原稿用紙に
400字以内で記述せよ。

条件

- ・与えられた粘土を使用すること
- ・準備された道具のみ使用すること
- ・作業板の範囲内で制作すること

令和2年度
沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科
生活造形専攻工芸専修 入学者選抜試験
漆工研究室

【実技試験問題用紙】

試験時間 13:30～16:30

配布物 ・ 解答用紙 2枚 (四つ切り画用紙 1枚、A4説明書 1枚)
・ A3下書き用紙 2枚

使用できる用具

・ 素描用具、色鉛筆

注意事項 ・ 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと。
・ 定規、コンパス等のその他用具は使用しないこと。

問題

- ① 四つ切り画用紙に「植物」をテーマとして、加飾を施した漆芸作品の完成予想図を描きなさい。
- ② 説明書の項目にしたがって作品の内容について記述しなさい。

※ 問題に関する質問にはお答えできません。

注意事項

- ① 作品本体の色は「黒」または「朱」と想定するが、それぞれの色を塗る必要はない。
- ② 説明書の「作品本体の色」の黒または朱に○を付けること。
- ③ 加飾部分のみ、素材や技法が分かり易いように色鉛筆を使い表現すること。
- ④ 立体感が感じられるように補助的な線や陰影を付けても良い。
- ⑤ 説明書の「作品の環境」とは、使用または設置する場所・状況・目的・他者との関わり・その他、作品を取巻く全てを意味する。
- ⑥ 四つ切り画用紙のタテ・ヨコは自由とする。作品の上下が分かるように裏面上部中央に作品の上部を示す矢印↑を鉛筆で明記すること。